

【概要】

2018年度 民間住宅ローン借換の実態調査

I 調査結果の主なポイント

※<>は、本調査結果の詳細資料中の該当ページ

1 借換により、金利タイプは「変動型」が増加し、「固定期間選択型」「全期間固定型」は減少<p. 2>

- ・ 借換前後の金利タイプの構成比は、「変動型」は借換前の構成比 38.7%から借換後は 48.6%に増加し、最も多くなった。
- ・ 「固定期間選択型」は、借換前の 41.5%から借換後は 38.9%に減少し、変動型に次いで2番目となった。
- ・ 「全期間固定型」は、借換前の 19.8%から借換後は 12.5%に減少した。

2 借換理由は、「金利が低くなるから」、「返済額が少なくなるから」、「適用金利が上昇し、返済額が増加するから」が上位<p. 8>

- ・ 借換理由は、借換後の全ての金利タイプにおいて「金利が低くなるから」、「返済額が少なくなるから」、「適用金利が上昇し、返済額が増加するから」の順となった。

3 借換による毎月返済額の減少分の用途は、「生活費」、「教育費」、「貯蓄（住宅リフォーム資金以外）」が上位<p. 13>

- ・ 借換による毎月返済額の減少分の用途は、全ての金利タイプにおいて「生活費に充てた」、「教育資金に充てた」、「貯蓄（住宅リフォーム資金以外）」の順となった。

II 調査の概要

- ・ 現在、住宅ローンの借入があり、2018年4月～2019年3月に借換をされた方を対象とし、借換による住宅ローンの金利タイプの変化などの事項について、インターネットによるアンケート調査を実施し、その結果を取りまとめたものです。
- ・ (参考)調査時期 2019年 4月 15日～4月 23日、回答数:1,000件